

【参考】 白い石(出エジプト記 28:30)

神の幕屋で仕える大祭司の胸当てには 12 の宝石がはめ込まれていた（出エジプト記 28：1～30、39：1～31）。そして、大祭司が聖所に入る時につける胸当て（裁きの胸当て）には、「ウリム」と「トンミム」を入れた（出エジプト記 28：30）。「ウリム」（白い石）には、神に裁かれる人々の名前が記してあり、その名前は大祭司しか知ることができなかった。

→出エジプト記 28：30（レビ記 8：8）

裁きの胸当てにはウリムとトンミムを入れる。それらは、（大祭司）アロンが主の御前に出るときに、その胸に帯びる。アロンはこうして、イスラエルの人々の裁きを、主の御前に常に胸に帯びるのである。

※ウリムとトンミム（U・rim and Thum・mim）：ヘブライ語の意味は「光と完全」すなわち「真理の光」の意。木、石あるいは金属で出来ており、神の託宣（お告げ）を受けるための道具であった。



エフォド：王の色（金、青、紫、緋色）で染められた毛糸と亜麻の糸で織られた胴着（腰にはベルト状の付け帯がある）で、肩紐には十二部族の名前が彫ってある 2 個の石が付けられている。
上着：エフォド（胴着）の下には、青い毛糸で織った裾の長い上着を着た。
胸当て：毛糸と亜麻のより糸でできた平たい袋状のもので、宝石を並べた 12 のポケットがある。
 ・第一列：ルビー、トパーズ、エメラルド（聖書協会共同訳）
 ・第二列：ざくろ石、サファイア、ジャスパー →くじゃく石、ラピスラズリ、縞めのう（聖書協会共同訳）
 ・第三列：オパール、めのう、紫水晶
 ・第四列：藍玉（らんぎょく）、ラピス・ラズリ、碧玉（へきぎょく）→かんらん石、カーネリアン、碧玉
 ※詳細：出エジプト記 28：1～38

出典(図)：牧師の書齋

タイトル(書名)	章 節 聖句 [検索対象総数：7 / 聖句等の総数 33250 <ウリム>7個<トンミム>5個] (新共同訳) [検索語彙：ウリム・トンミム]
K 出エジプト記	28:30 裁きの胸当てにはウリムとトンミムを入れる。それらは、アロンが主の御前に出るときに、その胸に帯びる。アロンはこうして、 <u>イスラエルの人々の裁きを、主の御前に常に胸に帯びるのである。</u>
K レビ記	8:8 次に胸当てを付けさせ、それにウリムとトンミムを入れた。
K 民数記	27:21 彼は祭司エルアザルの前に立ち、エルアザルは彼のために、主の御前でウリムによる判断を求めねばならない。ヨシュアとイスラエルのすべての人々、つまり共同体全体は、エルアザルの命令に従って出陣し、また引き揚げねばならない。」
K 申命記	33:8 レビのために彼は言った。 <u>あなたのトンミムとウリムを／あなたの慈しみに生きる者に授けてください。</u> あなたがマサで試し、メリバの泉で争ったとき
K サムエル記上	28:6 サウルは主に託宣を求めたが、 <u>主は夢によっても、ウリムによっても、預言者によってもお答えにならなかった。</u>
K エズラ記	2:63 総督は、ウリムとトンミムをつけた祭司が立つまで彼らが聖なる食べ物にあずかることを禁じた。
K ネヘミア記	7:65 総督は、ウリムとトンミムをつけた祭司が立つまで、彼らが聖なる食べ物にあずかることを禁じた。